

研究の概要

1. 研究主題

「ことばの力を磨いて学びに向かう子の育成」
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを通して～

☆研究を通してめざす児童の姿

- ・見通しを持って主体的に学習に取り組む子
- ・対話を通して自分の考えを広げ深める子

2. 主題・副題設定の理由

本校は国語の授業づくりについての研究を積み重ね、授業づくりについて研究を進めた。昨年度は、国語科だけではなく、国語科を中心に他教科・他領域においても主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを通して、主題に迫ってきた。その中で、以下の点が成果としてみられた。

- 教師自身がB規準を明確に持ち、単元の目標を示しゴールをはっきりさせることで、児童が「～のために」というゴール意識を持ち、見通しを持って学習することができた。また、必要感のある課題を設定することで、相手意識を持ち主体的に学習に取り組むことができた。
- ペアやグループでの話し合いや交流を通して、自分の考えを広げたり深めたりする姿が見られた。自分の考えを十分に持つ時間を確保し、自分と他者の意見や考えを比較することで、さらに自分の考えを深めることができた。
- 単元全体の見通しが持てたことで、1時間や単元の中でどのような力がついたか振り返ることができるようになった。単元末には、単元を通して身についたことを振り返らせることで、教師も児童も学びの深まりが明確になった。
- 図書館司書と連携し、単元の始めにブックトークを行うことで、意欲的に学習に取り組む姿が見られた。単元のねらいに迫るための本の選定や本の提示の仕方について事前に打ち合わせることでブックトークをより効果的に行うことができた。

以上のように、研究を積み重ねてきた成果が見られる一方で、次のような課題が挙がった。

△B規準に達する児童の具体的な姿をどのように評価していくのか、評価の場面や評価方法について研究を深めていく必要がある。また、年間を見通し、指導事項をどの単元でどのように指導していくのかについて確認し、2学年のまとまりで系統的に指導していく。

△学習形態の工夫については、どの場面でもどのように学び合うか児童の実態に応じて設定していく。ペアやグループでの学び合いを児童自身が選択できるような学習展開についても今後熟考する必要がある。

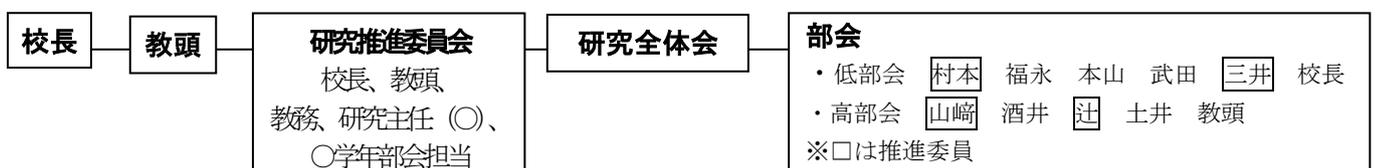
△振り返りをする時間の確保が課題である。自分の学びを振り返る時間、友達の振り返りを共有する時間が設定できるようにタイムマネジメントし、深い学びへとつなげていく。

△語彙をさらに増やすことが課題である。授業の中で学習用語を意識的に使ったり、国語科教科書付録「言葉のたから箱」を活用したりして、表現を広げていくように意図的なしかけが必要である。

これからの時代を生きる子ども達に必要な力を育成するために、主体的・対話的で深い学びに向かう授業づくりを進め、目的に向かって困難を打開し、主体的に学びに向かう力をつけてほしいという教師の願いを共通理解した。

そこで、今年度の主題も前年度までの蓄積を大切にしながら、国語科を中心に他教科・他領域においても主体的・対話的で深い学びに向かう授業づくりを目指し、「ことばの力を磨いて学びに向かう子の育成」を進めていきたい。

3. 研究組織と進め方



- ①研究推進委員会の推進のもとに、研究全体会の研修内容を充実させ、研究を進める。
研究全体会は、研究推進委員が進行・記録をする。
- ②各部会では、指導案の作成・検討、日常の授業における取り組みについての情報交換等を行う。
- ③研究全体会では、教材研究・指導案検討・模擬授業・授業整理会・講話等を行い、主題に迫る。
- ④講師を招聘し、研修を深める。
- ⑤校外研修で学んだことについて報告会を行い、全職員で共有し、実践に生かす。
- ⑥PDCAサイクルを基本とし、研究授業等で見えてきた課題を日々の実践に活かしていく。

4. 研究の内容

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり

①課題の焦点化

- ・年間計画、指導事項配列等をもとに、前後の学年の指導事項を確認し、系統性を考えながらつきたい力を明確にする。児童がどのような姿になれば、力がついたと判断できるのかというB規準を明確に持つ。そして、そのねらいを達成するために有効で、児童の実態に合った言語活動の開発と選定を行う。日常生活と関連付け、学ぶ必要性や目的・相手意識を明確にし、児童の意欲や主体的な学びが持続するような工夫をする。
- ・目標を達成した児童の具体的な姿を明らかにし、指導事項を的確に捉え、評価基準や評価場面、評価方法といった見取りの視点・方法を探っていく。

②学習形態の工夫

- ・対話的に学ぶ場を意図的・計画的に位置付け、学習課題や学習過程が見通せる授業づくりをする。児童が目的意識を持ち、話し合いの必要性を感じる場面で効果的な学習形態を工夫していく。そのときには、話し合いの観点を持たせ、自分と他者の意見や考え方を比較したり、自分では気づくことが難しい気づきを得たりしながら、考えを広げたり深めたりできるような場面や学習形態を設定する。学習形態を工夫することで、目標達成に向かう児童の学びのプロセスの中で「何を」「何から」見取るかを意識した授業づくりをしていく。
- ・学級の実態に応じて、「授業における目指す姿」・「具体的な目指す話し合いの姿」について設定する。そして、折に触れて見直しを図りながら、ステップアップしていけるようにする。
- ・一人一台のGIGAタブレットを使用した学習形態を工夫していく。

③学びの自覚化

- ・児童自身が学びの広がりや深まりを自覚化し、学ぶことの意味を感じ、次の学習意欲につながるように、授業や単元の終わりには、つきたい力に沿った振り返りの視点を提示する。また、集団で学んだことを再度自分自身で振り返る場を設定し、より深い学びへとつなげていく。

(2) 学びを支える基盤づくり

①ことばの力を育む基礎・基本

- ・語彙力を養うために、朝読書の時間を有効に活用し児童が幅広い本に親しめるように取り組む。図書館司書と協力して、各学年に「おすすめの本」を設定したり、月に1回読み聞かせをしたりして、自分が好む本以外にも幅広い本に触れる環境を整える。また、学習への意欲を高めるために、単元の始めに図書館司書によるブックトークも取り入れる。
- ・授業の中で学習用語を意識的に使ったり、国語科教科書付録「言葉のたから箱」を活用したりして、表現を広げていくよう意図的にしかけ、語彙を増やしていく。

②授業を支える温かい人間関係

- ・生徒指導の三機能を生かした授業づくりに努める。友だちの発言を最後まで傾聴し、友だちの言葉を途中で遮らず、自分の考えと比べより深く考える習慣を身に付けさせる。
- ・学び合う授業を支える学習規律を徹底する。「チャイムでスタート」「学習道具の準備」を基本とし、全学年共通で取り組む。

5. 研究計画

月	日	研究会等	内容
4	14	研究全体会	研究概要・研究計画について 「めざす学び合いの姿」の共有
5	11	研究全体会 校内研修会	研究授業①の指導案検討 研究授業①の模擬授業 映像資料の視聴「課題の焦点化」、「学習形態の工夫」、「学びの自覚化」についての具体的なイメージの共有
6	9	研究全体会 要請訪問	研究授業①の模擬授業 研究授業① 研究協議
7		部会	1学期の振り返り—児童・職員アンケート① —「めざす話し合いの姿」の振り返り①
	14	研究全体会	2学期の研究の重点について
	21	要請訪問	国語科授業づくり研修会 寺山指導主事
8	20	研究全体会	計画訪問授業の教材研究・指導案検討 研究授業②の模擬授業
	27	研究全体会	2学期の方向性の確認、具体策の共有
9	22	授業交流 計画訪問	単元構想シートを使って計画した授業の参観
			授業交流期間 9、10月
10		部会	研究授業②の指導案検討—研究授業②の模擬授業
	13	研究全体会	計画訪問を受けて共通理解の確認 クロームブックの活用法
11	17	石川県書写教育研究 会研究大会	公開授業 全体会
	24	金大連携ゼミ	研究授業② 研究協議 金沢大学折川教授 講話「目標達成するための授業づくり」
12	6	研究全体会	2学期共通実践の振り返り
	24	部会	2学期研究の振り返り
1	19	研究全体会	研究のまとめ
3	2	研究全体会	来年度の研究について 「めざす話し合いの姿」の振り返り③

研究授業について

- ・ 要請訪問・金大連携ゼミの各部会1本ずつ行う。
- ・ 計画訪問で行う各教科の中で、研究の3つの柱を意識した授業づくりをする。

研究の柱を意識した日々の実践

- ・ 「課題の焦点化」、「学習形態の工夫」、「学びの自覚化」が日々の授業の中で展開されていくように教材研究する。

研究のまとめについて

- ・ 日々の実践の中で行ってきた3つの柱についての成果と課題をまとめていく。
国語科、他教科の2領域での実践が見られるまとめとする。

研究主題

ことばの力を磨いて学びに向かう子の育成
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを通して～

研究を通してめざす児童の姿

- ・見通しを持って主体的に学習に取り組む子
- ・対話を通して自分の考えを広げ深める子

主体的・対話的で深い学びに向かう授業づくり

課題の焦点化

- ・つけたい力を明確にした、ねらい達成のために有効な単元計画、言語活動の設定

学習形態の工夫

- ・自分の考えを持たせ、児童の実態や目的に応じた話し合い活動の工夫
- ・学び合いの姿の共有化

学びの自覚化

- ・具体的な視点に沿ったふり返りの場の設定
- ・ふり返りによる自分の考えの再構築

ことばの力を育む基礎・基本

- ・朝読書、読み聞かせ、ブックトーク
- ・言葉のたから箱

授業を支える温かい人間関係

- ・お互いに認め合い、安心して学習できる学級づくり
- ・学習規律の徹底
(チャイムでスタート、学習道具の準備)